

てくれている」との思いから、友達作戦や思いやり予算が成り立ってきた。アジアで孤立し、より米国と親密になり、さらにアジアで孤立し不信が高まる。その結果、米国に従属していた方が合理的だった。

しかし、冷戦構造の終了とアジアにおける日本の突出した経済力が中国の台頭によって相対化されたことによって、日米関係の基礎は変わった。米国は日本に対して庇護・互恵から、TPP交渉に見られるように収奪すべき対象へと位置付けるようになった。

翁長沖縄県知事が、「沖縄は『戦後レジームの死守』をしていると、私は思っている。沖縄の基地問題無くして、日本を取り戻すことはできない。日本の民主主義の品格が問われている」と発言されている。本土では軍事的属国が見えないが、沖縄は本当のことが見えている。

資本主義の行き詰まりは、成長戦略の切り札としての大量破壊→経済成長の構図を作り出す。戦争の危機を否定できない。安倍首相は、武器産業を基幹にしたいと考えている。

「戦後」を支えてきたものは、客観的に変わってしまった。にもかかわらず、この「終わり」を受け止めることができていない。「敗戦の否認」を代表するような政治家を首相にしている。

戦争をしないために、日本国民の奴隷根性を

否定する集団を広げていけるかが問われている。白井さんは最後に、今、社会の変動は生じており、政党はそれをとらえなければならないと、講演を締めくくられました。

白井さん先頭にピースウォーク

つどい終了後、JR 芦屋駅まで150人がピースウォークをしました。「9条守ろう」「若者を戦場に送るな」「アベ政治を許さない」などのプラカードやのぼりを掲げ、白井さんを先頭にコールをしながら「平和」を訴えました。街頭から「頑張っ！」と手を振ってくれる人、店から出て来てくれる人など、例年以上の声援を受けました。JR 芦屋駅北デッキで、数人がそれぞれの思いを発言し交流を行いました。



今年も憲法9条を保持する日本国民がノーベル平和賞にノミネートされました。3年連続3回目。安保法制に反対する多くの人々が声を上げており、これまでにない意識の高まり、深まりにより受賞に期待しましょう。

芦屋「九条の会」代表が交替しました

改憲の危機の時、頑張りましょう

6月から代表を務めることになりました久保富三夫（ふみお）です。

芦屋に生まれて67年になりますが、県立芦屋高校を卒業してからは、芦屋市民でありながら、青年期の「芦屋勤労者山岳会」での自然保護活動を除いては、「寝泊まり市民」でした。鉄鋼メーカー、神戸市立高校3校、立命館大学、和歌山大学（和歌山居住）と転々といたしまして、昨春、ようやく芦屋に戻ってきました。ただ、帝塚山学院大学（堺市）に勤務していることもあり、世話人・事務局の皆様を活発な活動ぶりになかなかついていけないのが実態です。

愛する日本国憲法（5月3日に結婚式を挙げました）が改悪の危機にさらされているとき、精いっぱい努めたいと思います。皆さまのお支えをどうぞよろしくお願いいたします。（久保 富三夫）

お世話になりました

この度、代表を辞任しました。支えてくださった方々に心から感謝しています。今、ほんとうに大事な時ですね。狡知に長けた政権があの手この手で改憲をもくろむのに対抗するのは容易なことではありません。最近知った心に響く言葉「あなたのすることのほとんどは無意味であるがそれでもしなくてはならない。そうしたことをするのは、世界を変えるためではなく、世界によって自分が変えられないようにするためである。（ガンジー）」白井さんの著書からの孫引きですが、真理でありましょう。（福間 公子）